

(ステージ③から一部抜粋) ☆思春期の子どもへの父として、母として…

○思春期の性の問題を考える時、大切なのは…「親であることに自信をもつこと」「子どもは大切な存在、信じること」

### 「クールダウンを」

…感情的になりそうなら…

ちょっと離れて落ち着いてから。

「問題が起きた時こそかかわるチャンス」  
いるんなにかかわってもらえることが大切。学校、専門機関、医療機関、親戚、友だち…

→自分もあんな時期あったな… →向き合ってみよう



### 「大人扱い」

親から子どもに相談をもちかけることで、「頼りにされている」と感じて、自分を見直すきっかけになるかもしれません。家族の一員として相談されることは、子どもにとって嬉しい時期だと思います。

(ステージ④から一部抜粋)

●ワーク6 もしあなたが  
将来子どもを育てるとしたら、  
どんなことを思いますか。  
(こんな親になりたい、  
こんな子に育てほしい、  
こんな親子になりたい、等。)



< 編集後記 >

東日本大震災から3年の月日が経ちました。震災後は、そのストレスに悩み、苦しむ子育て中の保護者の心がとても不安定な状態でした。そんな心のケアと安心の回復のために昨年度、宮城県版親の学びのプログラム『親のみちしるべ』を作成いたしました。本年度は、その第2弾として、新たに“思春期の子どもに向き合う”ための親向けプログラムと“親になる準備”という近い将来親になる10代の子ども向けプログラムを作成いたしました。幼児期とは違う子育ての第2ステージともいえる思春期の子どもを育てる親は、その対応を考え、中高生の子どもは、子どもを産み、育てるということについて考え、それぞれがまず、自分に向き合い、親子の信頼関係について見直すきっかけをつくっていただけたら幸いです。より良い親子関係が今日の日を支え、また人生を支えるものです。このプログラムが親子の信頼関係を築いていくための一助となることを期待いたします。

平成26年3月

宮城県版 親の学びのプログラム作成委員会  
委員長 志村 祐子 (東北福祉大学准教授)

### 宮城県版 親の学びのプログラム作成委員 (50音順・敬称略)

- |        |        |                        |
|--------|--------|------------------------|
| 副委員長   | 石垣 政裕  | (お父さんたちのネットワーク世話人)     |
| 委員     | 越中 康治  | (宮城教育大学准教授)            |
| 委員兼挿絵  | 小野 智香  | (イラストレーター)             |
| 委員     | 相良 徳子  | (元宮城県PTA連合会理事)         |
| 委員     | 佐藤 秋生  | (大郷町立大郷中学校主幹教諭)        |
| 委員長    | 志村 祐子  | (東北福祉大学准教授)            |
| 委員     | 鈴木 淳   | (宮城県教育庁教育企画室主幹)        |
| 委員     | 中保 良子  | (特定非営利活動法人子育て応援団ひよこ理事) |
| 委員     | 三浦 聡子  | (東北生活文化大学高等学校養護教諭)     |
| 委員兼事務局 | 松崎 和佳子 | (宮城県教育庁生涯学習課主幹)        |



# 宮城県版 親の学びのプログラム ～十人十色の子育て&親育ち・自分育ち～

## 第2弾

# 親のみちしるべ



第2弾は“親になる準備”のステージもあるよ!

「あーそうか!」  
という  
気が  
生まれます。



家庭・地域・学校 みんなでスクラム組んでいきたいですね



平成26年3月

宮城県教育委員会

はじめに

甚大な被害をもたらした東日本大震災から3年が経過しました。本県では、平成23年9月に策定した宮城県震災復興計画に基づき、震災後における生活不安や心の傷を有する親子を支援することに重点をおきながら家庭教育支援の充実を図ってきました。

昨年度は、震災後のストレスに悩み、苦しむ保護者の心のケアや安心の回復と社会的課題（孤独な子育て、虐待や放任、しつけ等）に対応するため、親育ちのための参加型ワークショップ形式プログラムとして、宮城県版親の学びのプログラム『親のみちしるべ』を作成いたしました。

本年度は、新たに思春期の子ども（10代の子ども）をもつ親対象のプログラム及び、将来親になる10代の子どもたち対象のプログラムを作成いたしました。前者は、親が自分の子どもの幼児期から思春期へと向かう成長過程の中で、自分の子育て（生き方）を見つめ直し、親自身も自分と向き合い、子育てや自分に対する新たな気づきを得るためのプログラムであり、後者は子どもが“子どもを生み、育てる”ということについて考え、親や周囲の大人を一人の人間として見ることで、より良い人間関係を築ききっかけを得るためのプログラムです。

このプログラムを活用し、親と子が正面から向き合って信頼関係を見つめ直すことで、子育てや自分への「気づき」を得るきっかけをつくり、学校や地域で家庭教育を支える活動に役立てていただきたいと思います。

ぜひ、本プログラムを活用していただき、みやぎの子どもたちが健やかに成長することを願うとともに、本プログラムの作成及びモデル講座の実践に当たり、御指導・御協力をいただきました作成委員会の皆様をはじめ、各関係機関の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成26年3月

宮城県教育委員会 教育長 高橋 仁

宮城県版 親の学びのプログラム『親のみちしるべ』～十人十色の子育て&自分育ち～  
＜第2弾＞反抗期・思春期の子どもに向き合う&将来親になる準備

[プログラム構成]

【ステージ①】子どものゆれる心に寄り添うためのプログラム

ーこれって反抗期？ー「ゆれる心の子どもに向き合おう」

【ステージ②】思春期の子どもをもつ親のためのプログラム

ー揺れる思春期の子どもたちー「思春期の子どもに向き合おう」

【ステージ③】思春期の子どもをもつ親のためのプログラム

ー揺れる思春期の子どもたちー子どもの性への目覚め  
「子どもの性に向き合おう」～一人の人間として～



【ステージ④】“親になる準備”のためのプログラム

ー未来の親となるあなたへー「こんにちは！赤ちゃん」

【ステージ⑤】“親になる準備”のためのプログラム

ー未来の親となるあなたへー「親になるということ」

宮城県版 親の学びのプログラム（第2弾）の概要

○ カラー印刷シートは、参加者用です。

○ 一色印刷シートは、進行（ファシリテーター）用です。

## 1 プログラムの特徴

このプログラムは、思春期の子ども（10代の子ども）を持つ親を対象としたプログラム（ステージ1～3）と、将来親になる10代の子どもたち対象のプログラム（ステージ4～5）からなっております。活用場面として、小学校高学年、中学校、高等学校の子どもをもつ保護者を対象とした場合は、研修会、講座、懇談会や個人の振り返り等で、親になる手前の時期にいる10代の中学生、高校生生徒たちを対象とした場合には、特別活動や総合的な学習の時間等で実践・活用できます。

いずれも参加者が自分自身と向き合い、それぞれの立場で相手を尊重し、信頼し合う大切さに気づき、より良い親子関係（家族関係や自分を取り巻く人間関係等も含めた）を築くことをねらいとしています。

### ☆ 親対象

参加型学習プログラム（ワークショップ形式）で、参加者同士が交流しながら、子育てや自分への「気づき」を得るきっかけをつくることのできるような工夫がされています。

### ☆ 10代の子ども対象

参加型学習プログラム（ロールプレイング、グループ学習等）で、仲間の力で互いに良い刺激を受けながら、一人の「気づき」が広がりを生むような工夫がされています。

※グループワークシート等を活用することで、

子育てサポーター・子育てサポーターリーダー等、  
誰が行っても効果が得られるようにします。



## 2 プログラムの活用場面

### (1) 親対象の場合

- ・ 保育所、幼稚園……保護者会
- ・ 小・中学校……入学説明会、PTA研修会、学級懇談会、保護者会
- ・ 地域……親の学び塾、家庭教育学級、子育てサークル、家庭教育支援サークル
- ・ 健診等……乳幼児健診、就学時健診
- ・ 公民館、社会教育施設、子育て支援センター等……家庭教育講座
- ・ アウトリーチ（訪問）型家庭教育支援

### (2) 10代の子ども対象の場合

- ・ 学校教育の中での特別活動や総合的な学習の時間等

